

# 修士論文要旨

論文タイトル：

「工作機械産業における戦略的提携に関する研究—日台合併企業を事例として—」

学籍番号：AM19010

氏名：HSIAO CHIH-YU

指導教授：林 聖子教授

## 【論文の構成】

はじめに、本研究の粗筋を紹介する。

第1章では、本研究の問題意識を提示する。

第2章では、本研究が取り扱う領域に関して体系的に先行研究を行う。

第3章では、研究目的と研究方法を述べる。先行研究と事例から仮説を導出する。

第4章では、詳細な事例研究を行い、仮説を実証する。

第5章では、本研究の考察を行う。

第6章では、本研究の結論を出す。また、今後の課題について述べる。

おわりに

## 【論文（報告書）の内容】

### 1. 研究目的

本研究では、台湾工作機械業界は、第一は技術能力向上の問題、第二は中韓 FTA のもたらす衝撃、第三は付加価値の低下、という問題に直面しており、台湾工作機械業界は迅速的に産業能力を向上させ、優れた部品を提供することで、ハイエンド製品の優位性を勝ち取らねばならず、絶えず変化する産業環境のために、海外進出として日本企業と台湾企業が戦略的提携における相互的に能力や資源を補完し合い、付加価値創造を生み出すことが必要なのではないかと考えられるので、工作機械産業の現状および事例分析を通じて、日本と台湾の工作機械産業の競争優位を検討し、自らの競争力の持続的強化と外部環境の変化への対応を分析し、日台企業間の戦略的提携における新たな価値創造について考察することを研究の目的とする。

### 2. 研究方法

日本と台湾における工作機械産業をまず概観する。そして、工作機械分野を中心として、日本企業と海外企業の提携、合併戦略等の先行研究を行い、先行研究と友嘉高松、DMGMORI の事例から仮説を導出する。また、在台の日台合併工作機械メーカーをヒアリングし、既存資料や企業の公開情報と併せて、戦略的提携の視点から、企業の実態や課題を事例として分析し、仮説を実証し、考察し、研究結果をまとめる。

### 3. 事例分析

大同大隈と崑崙機電の2社について既存資料と企業の公開情報と1社は訪問ヒアリングから、詳細な事例分析を行い、仮説①戦略的提携における他社と協力的な関係を構築することで、市場規模の拡大をもたらすことができる、仮説②戦略的提携の一つである合併することにより、相互の資源を利用し、付加価値を高める、を実証した。企業が1社以上のパートナーと結合を通じて、両方の優位性を融合するため、競争優位を構築できている。さらに、将来のニーズに応じる工場拡張の方式を取り上げ、市場・事業規模を拡大させ、積極的に海外市場への展開し、共に利益を獲得する。

### 4. 考察

永池（2003：p.3）によれば、提携は現在では M&A や直接投資の補完としてではなく、並列的な戦略的手段として活用され、支配を必ずしも目指すものではなく、もっと多面的、柔軟な競争戦略の形態としても用いられているのが現状であると指摘し、十川（2005：p.57）は企業が戦略的提携という行動を選択するには、コア・ケイパビリティの更新・構築、それにより競争優位の一層の強化を図ろうとする

戦略的意図があるからと論じており、これらと、事例からの仮説の実証を通して、戦略的提携の視点から、パートナーと協力し、異なる補完的な技術とケイパビリティを活用することで、新たな価値を創造し、一層の学習を促進することを目的とするものであり、企業の競争優位を構築することができると考えられる。

## 5. 研究結果

従来、工作機械は日本やドイツなどの先進製造国と比べ、台湾の工作機械は高付加価値と信頼性ではだいぶ距離があったが、日本企業との戦略的提携や合併をすることで、台湾拠点を拡充し、日本の資源やケイパビリティと結びつけ、中国市場での占有率を拡大し、台湾工作機械産業での協力ネットワークを完備し、製品のモジュール化を注ぎ、コスト優勢に極めて高い国際競争力を持てるようになった。したがって、パートナーとの戦略的提携や合併企業により、自社単独の戦略の限界を補うことの重要性を認識する必要があり、特に中国や新興国市場により参入するには、低価格・高品質の生産技術が一層必要と考えられる。

## 【主要参考文献】

- 1、天野倫文、新宅純二郎、中川功一、大木清弘（2015）『新興国市場戦略論』有斐閣
- 2、榎本俊一（2015）「後発工作機械メーカーの戦略的M&A展開 - 森精機の経営資源獲得とグローバル化 -」『商学論纂（中央大学）』第57巻，第1・2号，pp.471-502.
- 3、韓金江（2009）「日本の工作機械工業の国際化 - 90年代以降の海外進出を中心として -」『アジア経営研究』第57巻，pp.61-70.
- 4、川上桃子（2003）「台湾工作機械産業における革新と模倣の主体 -43社の調査による分析-」『日本貿易振興会アジア経済研究所』第44巻，第3号，pp.2-30.
- 5、経済産業省（2011）「工作機械産業」『主要製造業の課題と展望』，pp.248-250.
- 6、今野喜文（1999）「競争優位構築に果たす戦略的提携の役割について」『三田商学研究』第42巻，第2号，pp.47-65.
- 7、今野喜文（2006）「戦略的提携論に関する一考察」『北星論集』第45巻，第2号，pp.65-86.
- 8、マイケルA. ヒット、R. デュエーン・アイルランド、ロバートE. ホスキソン（2014）『戦略経営論—競争力とグローバルイノベーション—』センゲージラーニング株式会社
- 9、松野建一（2018）「日本の工作機械産業発展史—日工大工業技術博物館の紹介と共に—」『日本音響学会誌』第74巻，第8号，pp.469-474.
- 10、松行彬子（1996）「戦略的提携における知識連鎖と相互浸透」『三田商学研究』第39巻，第1号，pp.107-124.
- 11、宮崎晋生（2004）「戦略的提携に関する考察」『国際関係・比較文化研究』pp39-47.
- 12、みずほ総研論集（2005）『急増する日本企業の台湾活用型対中投資—中国を舞台とした日台企業間の「経営資源の優位性」補完の構造—』pp.1-35.
- 13、水野順子（2003）「台湾の工作機械産業—分業の外延的拡大—」『日本貿易振興機構アジア経済研究所』pp.63-87.
- 14、永池克明（2003）「エレクトロニクス産業における戦略的提携の研究」『経済学研究』第70巻，第1号，pp.1-28.
- 15、劉仁傑、佐藤幸人（2013）「日台ビジネスアライアンスにおけるハブ企業の生成—工作機械メーカーのケーススタディー」『日本貿易振興機構アジア経済研究所』第217巻，pp.33-40.
- 16、清水恵一（2011）「提携の概念とパースペクティブに関する一考察」『日本経営診断学会論集』第11巻，pp.183-188.
- 17、宍戸善一、梅谷真人、福田宗孝（2013）『ジョイント・ベンチャー戦略大全』東洋経済新報社
- 18、十川廣国（2005）「戦略的提携と組織間学習」『三田商学研究』第48巻，第1号，pp.55-65.
- 19、台湾工研院創新與科技管理研討會（2006）「台湾工具機産業—新國際競争力來源—」pp.1-7(<http://dspace.lib.fcu.edu.tw/bitstream/2377/957/1/cb11iitm02006000049.pdf>)
- 20、牛丸元（2004）「戦略的提携のガバナンス」『北海学園大学経営論集』第1巻，第4号，pp.1-9.